

## 現場研修事業の概要

### 1 大河津分水路改修事業 [実施主体：北陸地整]

新潟県燕市、長岡市

大河津分水路とは、新潟県のほぼ中央部で信濃川が日本海に最も近づく地点の燕市大川津から長岡市寺泊海岸までの全長約10kmを繋いだ大正11（1922）年8月25日に通水した人工水路です。信濃川の洪水を日本海へ流し、日本有数の穀倉地帯である越後平野を水害から守る重要な役割を担い、越後平野発展の礎をなしています。令和4（2022）で通水100周年を迎えます。

大河津分水路改修事業では、大河津分水路より上流側に位置する信濃川（中流部）や千曲川をはじめ、信濃川水系全体の洪水処理能力を向上させるため、最下流に位置する大河津分水路の改修に平成27年度より着手しています。

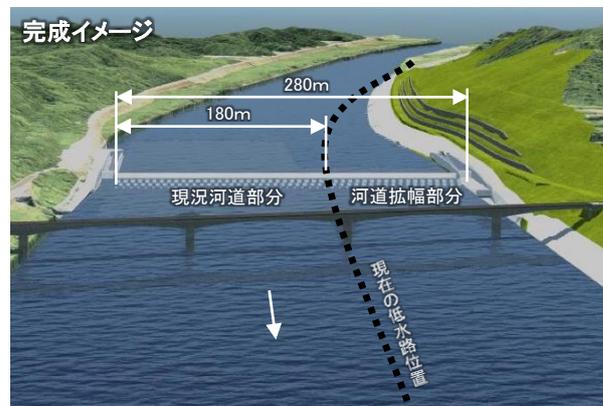
大河津分水路の改修にあたっては、課題となっている洪水処理能力不足や河床洗掘等の対策として「山地部掘削」、「低水路拡幅」、「第二床固の改築」を実施します。

また、河口部の拡幅に併せ、「野積橋架替工事」もあわせて実施しています。

（第二床固改築工事）

現在の第二床固は老朽化が激しく、機能の低下が懸念されていることから、河口部の拡幅に併せ、新しい第二床固を設置する必要があります。施設の幅は、現在よりも約100m広くなり、高さは、現在の第二床固と同じT.P.+5.0mで、現在ある副堰堤の下流に設置する工事を進めています。新第二床固と併せて設置する減勢工や護床工が一体となり、上流にある複数の床留とともに、大河津分水路の河床の安定を図ることを目的としています。

令和3年度までに、新第二床固本体の一部となる鋼殻ケーソンについて、9函のうち3函の設置を完了しています。



また、本事業は、「3次元情報活用モデル事業」に指定されており、各業務、各工事で作成されたCIMモデルから「統合CIMモデル」を作成し、発注者と受注者がクラウドで共有するなど、「3次元データの活用による事業の効率化」を図っています。

